

学長のコラム

リサーチマインド

9月8日の熊日朝刊によると、日本の大学の理系論文数がこの20年間頭打ちとのことである。記事によれば、共同通信が文部科学省科学技術・学術政策研究所の論文数に関するデータや総務省の科学技術研究調査を基に比較したところ、1986～1999年度の間は国公立大学などの研究費は各年度平均で4.40%増、論文数は年平均5.47%増だったという。ところが、研究費は1999年度に前年度割れし、その後横ばいの状態となり、それに呼応する様に論文数も横ばいとなっている。世界に目を向けると米国や中国の論文数は飛躍的に伸びており、日本の地盤沈下が著しい。2006年度からは国立大学への運営費交付金は毎年1%程度削減され、私学助成も抑制されている。大学をはじめとする研究機関への基盤的資金が減額され、研究者を取り巻く環境が窮屈になってきている。研究のための資金は科研費などの競争的資金に依存する割合が高まっており、今や競争的研究費の獲得は研究者にとって必須となっている。

振り返って本学の状況を見ると、今年度の科研費の新規採択は8件（基盤C4件、若手3件、萌芽1件）で継続の12件を加えても計20件で、専任教員100余名を抱える大学としては物足りない。本学の本分はまごうことなく人材育成であるが、教育と研究は決して真逆のものではなく、研究の活性化は本学学生の「リサーチマインドの醸成」に欠かせないものである。

リサーチマインドに関して私が感銘を受けたのが、9月9日に開催された博士号取得者による講演会である。この講演会では本学卒業生で博士号を取得（または内定）した2名の博士研究の発表を聞くことができた。医学検査学科卒(H19)の波野史典氏は、鹿児島大学大学院博士課程に在籍し、不整脈に対するカテーテルアブレーション（心筋焼灼術）における焼却部位の決定に必要な電気生理学的検査による三次元マッピングの研究を行った。現在は、その成果を利用して、鹿児島大学附属病院検査室で三次元マッピングに従事しており、博士研究が直接、現在の臨床職場に役だった良い例である。カテーテルアブレーションという先端医療を担うスタッフの一員として自信に溢れた発表であった。

もう一人の講演者は、リハビリテーション学科PT専攻卒(H22)の宮本雄太氏である。宮本氏は本学卒業後、熊本大学大学院医学教育部形態構築学分野に進み、H29年3月に博士号を取得している。研究テーマはマウスの大脳基底核における神経細胞の多様性の解析で、多重免疫染色のデータを用いて三次元再構成を行い、新規の神経細胞の系譜が存在する可能性を示唆している。現在、同分野の助教を務めており、神経解剖学者の道を突き進んでいる。懇親会で話を聞くと、研究者への転身は本学在学中に解剖学担当の森本正敏教授（当時）の薫陶を受け、1年次から解剖学に興味を持ったのがきっかけと言う。「リサーチマインドの醸成」の成功例と言える。

本学では、研究の活性化のために教育研究プログラム・拠点研究プロジェクト（P&P）による独自の研究支援を行っているが、これを踏み台として、是非、多くの先生方に科研費の獲得を目指して戴きたい。繰り返しになるが、教育と研究は決して真逆のものではなく、本学学生にとってリサーチマインドを身に付けることは、医療人として大きな資質となるに違いない。教員各位の研究展開が人材育成にも結びつくことを願ってやまない。



9月・10月・11月の主な行事予定

9/25 (水)	後期授業開始、科研費説明会
9/27 (金)	修了式（認定）
9/28 (土)	保護者会
10/ 1 (火)	辞令交付式
10/ 6 (日)	地域連携/城北校区秋まつり「ふれあいの日」
10/ 8 (火)	アクティブラーニングワークショップ
10/16 (水)	動物慰霊祭
10/19 (土)	杏祭
10/22 (火)	即位礼正殿の儀（祝日）
10/26 (土)	地域連携/ふれあいフェスタ in ほくぶ（～10/27）
10/30 (水)	医学検査学科 臨地実習認定式
11/ 2 (土)	学部リハ社会人入試、助産別科推薦入試、大学院推薦選抜・社会人選抜（I期）入試
11/ 3 (日)	フードパルフェスタ 2019（～11/4）
11/ 6 (水)	第8回 国際シンポジウム 開催国：タイ（～11/8）
11/ 8 (金)	インフルエンザワクチン接種
11/16 (土)	入試（指定校推薦・一般）
11/19 (火)	インフルエンザワクチン接種
11/20 (水)	防災訓練
11/21 (木)	定期健康診断（教職員）
11/27 (水)	銀杏学園 理事会

※10/1（火）より化血研との共同研究が始まります。

第14回 日本臨床検査学教育学会学術大会の御礼

この度、「支え合う・寄り添う」をテーマとして第14回日本臨床検査学教育学会学術大会を2019年8月21日（水曜）から23日（金曜）の3日間、本学におきまして開催させていただきました。全国からの学会参加登録者は教員253名、学生95名などの計349名であり、3日間の延べ参加者数は800名を超えて、盛会に終了することが出来ました。天候にも恵まれたことと、医学検査学科をはじめ本学教職員のご協力・ご支援により、学会準備を滞りなく進めてきたことが称賛に値したのではないかと同時に、教職員の皆様に心より御礼申し上げます。

銀杏学園創立60周年の記念とする年に小規模ながらも全国学会を開催できたことを誇りにして、今日から更なる臨床検査学教育へのinnovationを抱き続けたい。

（文責：大会長 古閑 公治）



職員旅行（高千穂方面）

9月12日（木）と13日（金）で開催し、日帰り組は40名、宿泊組は28名にご参加いただきました。両組に共通する企画はサントリー九州工場と五ヶ瀬ワイナリー見学で、ともにお酒に関する所でした。

日帰り組はその他に、手延べ素麺の肥後そう川、幣立神社に行きました。肥後そう川では工場見学と試食をしました。もちもちの食感でとても美味しく、皆さんたくさん買い求めておられました。幣立神社は「大宇宙大和神（おおとのちのおかみ）」という万物の神様が祀られており、パワースポットとして有名な所だそうです。お参りした後に雨に降られてしまいましたが、この先何かいいことがありそうな予感がピンバシしてきました。

宿泊組は高千穂溪谷、天の岩戸神社に行き、歩くのに苦労する所でしたが、いずれも素晴らしい場所で心が洗われました。夜の食事会ではじゃんけん大会、部署別カラオケ大会で盛り上がり、その後、夜神楽を見に行きました。2日目はあまてらす鉄道、山村酒造に行きました。

お酒あり、添乗員さんの話の面白さもあり大変思い出に残った旅行となりました。

（文責：リハ学科幹事一同）※右は宿泊下は全体

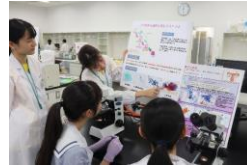


情報セキュリティ研修会

8月30日（金）に令和元年度第1回情報セキュリティ研修会を開催しました。「最近の情報セキュリティ問題」と題して、本学情報セキュリティアドバイザーである菊池 健先生にご講演いただきました。ご講演では大手コンビニチェーンのキャッシュレスサービス問題、そして教育現場でも利用が広がっているクラウドサービスの特徴と留意点について、実例を交えて分かりやすくご解説いただきました。この研修会が教職員の情報リテラシーの向上につながれば幸いです。（文責：情報保護委員会）

オープンキャンパス（7/21、8/18） チャレンジ熊保大！（8/25）

7月21日（日）と8月18日（日）にオープンキャンパスを、8月25日（日）にチャレンジ熊保大！推薦入試対策講座を開催しました。オープンキャンパスは2回合計で1,847名、推薦入試対策講座は273名と多くの高校生、保護者様にご参加いただきました。特にオープンキャンパス8月期の参加者数は1,069名と過去最多となり、さらに7・8月期合わせても過去最多の参加者となりました。オープンキャンパスは低学年層が将来の進路を決める上で、重要なイベントであることを踏まえつつ、引き続き改善を重ねていきたいと思っております。（文責：広報課）



私大協九州支部 第6回初任者研修会

8月29日（木）～30日（金）の2日間、本学において標記研修会が行われ、九州・沖縄各県から勤務年数1～4年程度の63名の事務職員（本学職員4名を含む）が参加しました。この研修会は隔年で実施されており、これまでは福岡ガーデンパレスで開催されてきましたが、本学を代表校とする今回の当番大学（崇城大、九看大、本学）との打合せで、熊本で開催することが提案され、実現しました。

研修1日目は竹屋学長の開会挨拶に続き、崎元理事長による講話「大学改革と望ましい職員像」をはじめとする4つの研修を、研修2日目はキャンパステラスを使って班別にテーマを設定したグループディスカッションとその発表を行いました。また、1日目の夜には、大学バスで熊本駅近くのニューホテルへ移動しての懇親会も開催され、職員どうしが積極的にコミュニケーションを図り、交流を深めていました。

（文責：事務局長）



私の秘話ヒストリー

今回は共通教育センターの田中 恵理講師に投稿していただきました。

子供の頃、日が暮れるまで四つ葉のクローバーを探したものだ。今でもクローバー畑を見ると、つい四つ葉を探したくなる。そんな四つ葉のクローバーは、私に淡い思い出をよみがえらせる——想いを寄せていた人との四つ葉のクローバー探し。彼は、四つ葉のクローバーの見つけ方を調べてきて、「人に踏まれると傷ついて四つ葉になるから、人が通りそうなところが良いよ」と。偶然発見するから幸運なのに、と思いつつも二人で四つ葉を探す時間そのものが幸せだった。先日、自宅の書棚にあるテリー・イーグルトンの『表象のアイランド』を開いたら、四つ葉のクローバーの押し葉が挟まっていた。自分で挟んだに違いないが、全く記憶にない。ちなみにアイランドの国花はシャムロックである。シャムロックとは、クローバーなど三つ葉の植物のことだが、アイランドを研究している私には、その本に挟まっていたクローバーは、私とアイランドとのつながりを示しているように思えた。四つ葉のクローバーは、昔も今も私を幸せな気持ちにしてくれる。

